平成22年度
社団法人新潟県臨床検査技師会
第２回通常総会議案書

期　日　　平成22年３月19日
会　場　　新潟大学医歯学総合病院　12F　大会議室

総会次第

１．開会
２．会長挨拶
３．来賓紹介
４．議長選出
５．議長挨拶
６．総会役員選出
７．資格審査報告
８．議事
　１）第１号議案　平成23年度事業計画（案）について
　２）第２号議案　平成23年度予算報告（案）について
　３）第３号議案　支部提出議案について
　４）第４号議案　日臨技定期総会提出議案について
　５）その他
９．総会役員解任
10．議長挨拶
11．閉会の辞

第１号議案

平成23年度事業計画（案）

平成23年度事業方針

当技師会は職能団体として会員ニーズに応えることと，臨床検査技師の県民への認知度向上を目指した事業展開を図りたい。分かりきったことだが，会員個々の組織体である技師会として何をなすべきか。そして何が出来るのかを常に考え行動したい。

具体的には2014年の医学検査全国学会を東北地区からの推薦を受けて，担当県並びに開催地として立候補する。多くの困難と負担が予測されるが，単なるイベント開催ではなく，担当することで組織の活性化と新潟県の学術レベルの更なる向上を図り，その効果を会員各位へ波及させることを目的としたい。今年度は開催担当県立候補届の提出とともに学会準備室を立ち上げ，「第63回日本医学検査学会 WG（ワーキンググループ）」として開催までのタイムスケジュール検討と，関連会議，研修会等を企画していく。

数年来の懸案事項となっていた法人移行問題については，会員の総意を得て一般社団法人としての移行手続きに入りたい。日臨技も一般社団へ舵を切ったことにより弊害は少なくなり，特例民法法人としての残期間が３年を切った現在，速やかな移行が求められている。

日臨技の一般法人移行に関連し，会費納入方法の変更，会員情報管理や入会方法の変更などの諸手続き改変。毎月発行されていた日臨技会誌「医学検査」の年６回刊行化。組織的には東北技師会等の地区技師会の支部化と支部区割りの変更。等々の動きが急だが，会員各位に混乱や迷惑が及ばない様心がけ，周知に留意していきたい。

このたび提案した災害時支援対策マニュアルについては，関係各位からご意見をいただきながら継続的に改善し，会員への周知とネットワークの拡大を図りたい。会員相互の連携と扶助を目的としているので究極の技師会組織活動とも言えるが，その維持存亡については会員参画によるところが大きいと考える。

また，恒例化して来たエイズ予防キャンペーン，ピンクリボン活動，その他支部主催の公益活動については，県に公益事業部を立ち上げ，各支部と連携しながら諸事業に対応していく。財政的な支部負担を軽減し，それにより各支部での卒後教育の充実に繋げていきたい。

今年度の新規事業や懸案事業を中心に述べてきたが，第５回になる臨床検査セミナー，秋の県学会等の継続事業詳細については，総務部門，学術部門，広報部門から提案する。

これら諸事業の遂行には，会員各位のご理解とご支援が何より必要となるので，今後ともよろしくお願いしたい。

【総務部】

１．会務の執行体制

平成23年度は役員改選期にあたり，円滑な業務運営を進めるためにも，マニュアルの周知に務め，業務の遂行を図りたい。

また，事務局（専従）機能を充実させ，各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として，一層の会員サービスの向上を図りたい。

組織強化の面からは，日臨技，東北臨技，各支部，会員各位と協力しながら情報交換を図り，一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制作りを整えなければならない。

日臨技関連として，支部制による地区割の編成案が出され，当県が東京都・神奈川県・千葉県を除く関東甲信越支部に属するとの情報が出され該当県に意見を求めたが，最終的に現東北地区に北海道を加えた北日本支部になることで理事会にて承認され，平成23年12月１日より完全移行することとなっている。

新公益法人制度改革による公益社団法人格への移行については，日臨技をはじめ幾つかの県で一般社団法

人への移行が決まっているが，当会としても理事会等で議論を重ねた結果，新公益法人制度へ移行することのデメリットおよびリスクを考慮し，また，組織としての体制が時期尚早と判断し，一般社団法人への移行を申請することとしたい。

2．諸会議

1）理事会・常任理事会

会議の招集，運営が非常に厳しい状況ではあるが，連携を密にするためにも，会議時間の短縮や運営方法を再検討しながら，総会に次ぐ議決機関として年６回の理事会を行い，常任理事会は毎月１回の定例開催を維持したい。

2）三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため，必要に応じて適宜開催する。

3）各種委員会

本会活動の要としての役割を担っているが，本年度も更に活発に運営して行きたい。

業務が益々多忙になる中で，積極的な業務の見直しと効率化を図って行きたい。

3．組織対策

1）各支部との連携

各支部持ち回りの秋の学会運営が定着しており，開催支部の特色を出しながら支部主導のもとに多くの会員参加を募り，本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

2）入会対策

引き続き厳しい医療情勢ではあるが，職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大が重要であり，各支部，各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保して行きたい。

今年度からの会費納入については，支部・県・日臨技会費を口座から一括引き落としされることで事務的作業も軽減され，日臨技が勧める臨床検査技師賠償責任保険への加入も付加されることから，会員への入会促進に努めたい。

また，日臨技がすすめる検査技師連盟への入会促進に積極的に取り組み，臨床検査技師の地位向上と業務の拡大を図りたい。

3）会員名簿の発行

個人情報保護法を遵守し，各会員の同意を得て隔年発行している会員名簿は，会務の運営ならびに会員相互の連携を図るうえに欠かすことが出来ないものであり，異動等があることから本年度は23・24年度版を発行する。

4．公益活動（地域保健医療活動）

地域保健医療活動である県民の保健・医療・公衆衛生の向上と臨床検査技師の社会的貢献を目的に，日臨技の公益事業計画および学会時の公開講演や健康展，関連職種団体との連携強化を進め，本年度も積極的に参画して行く。

また，今年度から，各支部で行われている地域保健医療活動についても，理事会等で検討し，当会の事業として取り込み活発に活動・支援していきたい。

5．無料職業紹介事業

さらに厳しさを増している就職情勢ではあるが，日臨技や各支部長と協力，連携して情報交換を行い，積極的に対応したい。

6．表彰関係

1）篠川至賞

平成23年度で第29回となる篠川至賞は，その制定主旨により，各支部からの推薦者の中より篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり，会員の励みにもなっている。各支部からの積極的な推薦を

お願いしたい。

2）会長表彰

特別功労表彰，永年会員功労表彰は，新臨技表彰規定に基づき，それぞれの基準に該当する者について表彰委員会の審議を経て，平成23年度通常総会において表彰する。

3）第52回東北医学検査学会表彰

新臨技表彰規定に基づき，それぞれの基準に該当する者について表彰委員会の審議を経て，学会担当県技師会に推薦する。表彰は学会式典において行われる。

4）生涯教育奨励賞

多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求めるべく，分野に関わらず最多得点者の上位３名を推薦する。

5）生涯教育新人賞

臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ，更なる技師会活動への参画に期待し，分野に関わらず20代会員の最多得点終了者を表彰する。

【学術部】

1．学　会

平成23年10月に第87回新潟県臨床検査学会を開催する予定である。今回の担当は新潟支部であり，会場は朱鷺メッセを予定している。認定技師制度に伴い認定資格更新のための指定講習会を学会で開催予定である。その他，例年同様に一般演題・レクチャー・ランチョンセミナー・公開企画を実施する予定である。

会　期：平成23年10月
会　場：朱鷺メッセ
テーマ：未定
内　容：一般演題・認定資格更新指定講習会・レクチャー・ランチョンセミナー
　　公開企画

2．検査研究部門

検査研究部門が企画する各種研修会は技師会の最も重要な活動のひとつである。医療制度や検査室運営体制，検査技術が激しく変化する状況においては，ますます重要な責務を負うものと考える。

組織は６部門に分かれ，生物化学分析部門，生理機能検査部門，形態検査部門，感染制御部門，移植検査部門，総合管理部門で構成される。また，部門は13種類の分野で構成され，臨床化学分野，免疫血清分野，染色体・遺伝子分野，機能検査分野，画像検査分野，細胞分野，病理分野，一般検査分野，血液分野，微生物分野，疫学・公衆衛生分野，輸血・移植分野，管理運営分野が実質的な活動単位になっている。活動は，分野単位が中心であるが，技術的な垣根が薄れつつある分野間では，複数分野が協力して横断的研修会を開催する。１分野あたりの活動費助成金は昨年度と同額の８万円とし，当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度の参加費で運営経費を補完する。

研修会参加費は新公益法人移行断念と会員への利益，活動費補完のために非会員に対しては３倍とする。また，参加は会員優先とし，特に人気の高い実習形式研修会では会員に不利益が生じないものとする。

研修会の内容は，初心者や認定技師取得教育，最新情報などのバランスを考慮して，様々な状況にある会員に有用な情報をバランスよく発信できるように体制を整備する。若手・初級・中級・小規模施設などの人財育成と魅力ある学術活動を目指し，研究分野と協力して検査研究部門としての系統的な生涯教育を行いたい。輸血・移植分野や生理検査部門，形態検査部門などでは，実習形式による研修会を積極的推進する。研修会開催日の重複を避けるため，研究分野や支部との連絡を密に行い調整を図る。研修会開催日や場所は十分考慮し，地域格差を軽減する。

昨年リニューアルされた新臨技ホームページを大いに利用し，研修会や研究分野の情報発信を行う。

若手技師教育や後継者育成は重要な課題である。若手技師を研究分野員や実務委員に積極的に登用し，後継者育成を行う。また，若手技師に対する学会発表や論文作成などの技術的なサポート体制を整備したい。チーム医療の重要性や役割が増加している。他職種との連携を強化することで相互協力の体制を構築したい。

3．精度管理事業（平成23年度事業計画）

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け，新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては，会員の技術向上に重要な事業であるという位置づけで，本年度も積極的に協力していく。

関係専門スタッフで構成された精度管理委員会の中心活動として，本事業の内容を更に充実，発展させていきたい。本年度も臨床化学，微生物，血球計数の調査を実施したが，可能な限り本年度も実施したいと考えている。平成19年度より日臨技データ標準化事業が開始し，それを踏まえ実施項目も増やし，標準物質が入手可能な項目には随時評価をおこなってきたが，本年度もそれらに努めたい。さらに，実施要項の Web よりのダウンロード，Web 上での結果入力などを検討したい。

また，日臨技では昨年度より「臨床検査室精度保証認証制度」が始まった。昨年度は一般施設の認証申請は17施設であった。今年度も多くの施設が申請をするよう啓蒙に努めたい。

4．生涯教育

生涯教育研修制度は，検査技師の知識・技術水準の維持向上を目的とし，会員の学習を組織的に援助する制度であり，定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得するものである。会員の履修点数は日臨技情報総合システムである JAMTIS を用いることにより管理されており，各都道府県技師会で行事・参加者登録を行っている。

本県技師会では，企画された各種研修会の行事・参加者登録を各検査研究部門にも手続きを行えるように整備してきたが，平成23年度より日本臨床検査技師会に行事登録業務が移行することが決定し，これに対応するため，各検査研究部門と協力しながら登録手順の見直しを行い，生涯教育研修制度業務を円滑に進めていきたい。

【広報部】

新臨技会誌，新臨技ニュース，ホームページの運営を通して全会員にリアルタイムな情報を提供していきたい。編集委員および HP 委員の努力と会員の協力により，会誌表紙のデザインおよびシンボルマークが決定した。同時に HP もリニューアルし，今後会員には情報発信の手段として大きく貢献できるものと期待している。ことに，日本臨床検査技師会の新体制により今後は日臨技への集約化が進むと考えられる。新潟県技師会としては，理事及び支部間の連携，会員相互の連携，学術学会・研修会の周知等を尚一層強化していかなければならない。新臨技会誌，新臨技ニュース，ホームページはその大きな役割を担っており，広報委員一同は，会誌や HP の充実に熱意を持って取り組んでいく。

1）新臨技会誌

会誌発行は279号から282号までの年４回季刊発行を予定する。〔講義〕は学会・研修会等の内容を掲載し，受講できなかった会員のために適宜掲載していきたい。

また，講義の内容は部門長を通してすべての分野から投稿していただくように広報活動にも力をいれる。〔研修会報告〕は参加会員の協力により引き続き掲載し，情報提供や新人会員の研鑽の頁としたい。親睦広報に関しては〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の思い出～〕などの掲載で会員相互の親睦をはかり，だれもが参加できる企画を増やしていきたい。新規には，公益活動の内容を紹介し，多くの会員に参加していただくため，〔公益活動報告〕を開始し掲載していく予定である。

本年度は会誌の表紙がリニューアルするのを機に，会員が待ち遠しくなるような内容で充実させていきたい。

2）新臨技ニュース

理事会議事録の掲載を中心に，組織活動，研修会案内，求人情報など速報性のある内容を順次掲載していきたい。発行は理事会終了後の月１回発行しているが，委員の努力により読みやすいレイアウトになっている。求人情報など早めに情報が入手でき好評である。今後も広く会員に読まれるよう工夫していきたい。

3）ホームページ

昨年リニューアルしたHPは会員からも好評を得ている。案内・各支部活動・研究班活動の内容がリアルタイムに閲覧できる。引き続き事務局との連絡を密にして，県内の会員に情報提供できるよう努めたい。

年間を通じた学術研究会日程・支部日程を掲載し様々な催事が共有できるよう速報性を持たせていく。また日臨技や各種職能団体とリンクさせることでより拡大したHPを目指したい。また検査技師の仕事や検査内容も盛り込んだ「検査Q＆A」のようなものを作成し，広く一般からもアクセスしてもらえるよう公共性を構築していきたい。

第２号議案

平成23年度収支予算（案）

予算編集に当たって

今回の予算編集は災害対策委員会発足，新法人化に関する費用および全国学会に関する費用の編成を行い，平成23年度の予算編成を行った。昨今の経済状況の低迷により昨年同様，企業合併などによる賛助会員および広告数の減少ならびに，団塊の世代の退職も重なり会員数の減少も懸念されるが，今後も会員数の維持，増加に努めたい。

新法人化に向けて，会員サービスの向上やレスポンスの良い情報発信に加え，更なる公益事業を充実させ予算の効率的運用を目指す。

以下に，予算編成の要点を示し，平成23年度予算の提案としたい。

収入について

１．会費収入：正会員は昨年よりやや増加傾向の1220名とし，賛助会員は68口とした。

２．事業収入：会誌広告収入は会員名簿作成があり増額。

３．雑収入　：共済基金からの増額。

支出について

１．事業費：学術研究費については昨年と同額。
総会費も例年同様とした。
広報費については会誌発行費を会員名簿作成のため増額。
組織強化費は小科目を支部強化費，組織公報費および災害対策費に細分した。
組織公報費は公益事業が各支部単位となるので負担分を増額。
災害対策費は組織設置にあたる費用を新たに設けた。

２．管理費：事務費消耗品費をやや増額したが，ほぼ昨年同様とした。

３．特定預金支出：学会引当預金支出を今後の全国学会のため継続。

４．予備費：法人化移行のために減額せず，昨年同様とした。

５．特別会計：全国学会開催のための必要経費を計上。

平成23年度収支予算書

平成23年４月１日から平成24年３月31日まで

収入の部

大科目	中科目	小科目	平成23年度予算	平成22年度予算	差　異	摘　　要
会費収入			8,070,000	7,960,000	110,000	
	正会員会費		6,710,000	6,600,000	110,000	1,220名
	賛助会員会費		1,360,000	1,360,000	0	68口
事業収入			4,650,000	4,140,000	510,000	
	参加費収入		850,000	850,000	0	
	会誌広告収入		1,100,000	590,000	510,000	会誌名簿広告料
	助成金収入		2,700,000	2,700,000	0	日臨技，県医師会
雑収入			2,205,000	905,000	1,300,000	
	預金利息収入		5,000	5,000	0	
	雑収入		2,200,000	900,000	1,300,000	協賛金等
当期収入合計　A			14,925,000	13,005,000	1,920,000	
前期繰越収支差額			1,000,000	1,000,000	0	
収入合計　　B			15,925,000	14,005,000	1,920,000	

支出の部

大科目	中科目	小科目	平成23年度予算	平成22年度予算	差　異	摘　　要
事業費			10,450,000	8,540,000	1,910,000	
	学術研究費		3,990,000	3,990,000	0	
		学　会　費	1,000,000	1,000,000	0	第87回新潟県学会
		学術部活動費	1,900,000	1,900,000	0	研究部門活動費
		精度保障事業費	640,000	640,000	0	新潟県精度管理事業
		負　担　金	350,000	350,000	0	東北技師会負担金
		雑　　費	100,000	100,000	0	源泉徴収税等
	総会費		1,250,000	1,250,000	0	
		準　備　費	250,000	250,000	0	賞状作成費等
		運　営　費	1,000,000	1,000,000	0	セミナー開催費
	広報費		3,010,000	2,300,000	710,000	
		会誌発行費	2,510,000	2,000,000	510,000	会誌４号，会員名簿
		広報編集費	500,000	300,000	200,000	広報委員会・HP 維持管理等
	組織強化費		2,200,000	1,000,000	1,200,000	
		支部強化費	800,000	600,000	200,000	各支部助成金・バーコードリーダー更新等
		組織公報費	600,000	400,000	200,000	各支部公益事業負担分
		災害対策費	800,000	0	800,000	災害対策備品等
管理費			4,910,000	4,900,000	10,000	
	事務費		2,400,000	2,390,000	10,000	
		備　品　費	200,000	200,000	0	パソコンソフト備品等
		消耗品費	100,000	90,000	10,000	文房具，封筒
		印　刷　費	300,000	300,000	0	各種案内コピー等
		通　信　費	500,000	500,000	0	案内発送等
		交　通　費	400,000	400,000	0	日臨技，東北会議
		渉外対策費	300,000	300,000	0	関連団体，支部対策
		報　酬　費	600,000	600,000	0	事務職員報酬等
	会議費	旅　　費	600,000	600,000	0	理事会旅費
	事務所費		1,730,000	1,730,000	0	
		維持管理費	1,600,000	1,600,000	0	賃貸料，電気代
		電　話　費	100,000	100,000	0	
		事務所雑費	30,000	30,000	0	
	雑費		180,000	180,000	0	
		交　際　費	150,000	150,000	0	関連団体慶弔費
		雑　　費	30,000	30,000	0	
特定預金支出			300,000	300,000	0	
	会館建設引当預金支出		0	0	0	
	学会引当預金支出		300,000	300,000	0	第56回東北学会積立
予備費			265,000	265,000	0	
当期支出合計　C			15,925,000	14,005,000	1,920,000	
当期収支差額　A－C			△ 1,000,000	△ 1,000,000	0	
次期繰越収支差額　B－C			0	0	0	

注１：短期借入金限度額1,000,000円

注２：債務負担額はない